



装身具の魅力 —華麗な出土装身具—

平成28年 **2月16日 (火)~4月22日 (金)**

時 間 午前9時から午後5時まで (入館は4時30分まで)

休館日 月曜日、ただし2月22日(月)、3月21日(月・祝)、4月18日(月)は臨時開館



瑞花双鳳五花鏡(下高井向原1遺跡出土)



ヒスイ製勾玉・垂飾(神明遺跡出土)



土製耳飾(神明遺跡出土)

開催にあたって

平成11年9月に開館した取手市埋蔵文化財センターは、この度第39回の企画展を開催する運びとなりました。これも日頃から私たちの活動を支えてくださる多くの皆様のおかげと、厚く御礼申し上げます。

人びとの生活の跡である遺跡からは、生活用具だけでなく、当時の人びとの営みや文化などがわかる様々なものが出土します。その中には、身体を装飾した装身具も多数含まれています。

取手市内からも、様々な装身具が出土しており、その中には、新潟県の糸魚川周辺でのみ産出されるヒスイを使った縄文時代の勾玉や、高位な人物しか所有できなかった銅鏡など、大変貴重な資料も出土しています。

現代にも通ずる、先史時代のファッションセンスと高度な文化や技術を堪能いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の企画展の開催にあたりご協力をたまりました関係各位にたいしまして、深甚なる謝意を表して開催のあいさつとさせていただきます。

平成28年2月

取手市埋蔵文化財センター

講演会

演題：鏡と信仰

講師：青木豊先生（國學院大學文学部教授）

日時：2月21日（日） 午後1時30分から3時まで（開場は午後1時）

会場：福祉交流センター多目的ホール（取手市役所敷地内）

定員：180人（当日受付順）

考古学講座

会場：埋蔵文化財センター 2階 講座室

定員：40人（当日受付順）

講師：埋蔵文化財センター職員

○第1回 「ゆめみ野地区の遺跡」

日時：3月12日（土） 午後1時30分から3時まで（開場は午後1時）

○第2回 「小文間地区の遺跡」

日時：3月27日（日） 午後1時30分から3時まで（開場は午後1時）

展示説明

○午前11時と午後2時 2月20日、3月13・21日、4月9・10日

○午前11時 2月21・27・28日、3月12・27日

予約不要、当日展示室においてください。

例言

1. このパンフレットは、平成28年2月16日から4月22日まで開催される取手市埋蔵文化財センター第39回企画展「装身具の魅力ー華麗な出土装身具ー」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の本橋弘美が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました（敬称略）。記して深謝の意を表します。

公益財団法人 茨城県教育財団 栃木県教育委員会 栃木県立埋蔵文化財センター ひたちなか市埋蔵文化財調査センター 常陸太田市教育委員会 常陸大宮市歴史民俗資料館 船橋市教育委員会 船橋市郷土資料館

主な参考文献

『取手市史』通史編Ⅰ 原始古代考古編 『茨城県教育財団文化財調査報告107集 取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡 下高井向原Ⅰ遺跡 下高井向原Ⅱ遺跡』住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 財団法人 茨城県教育財団 『茨城県教育財団文化財調査報告123集 取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大山Ⅰ遺跡』住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 財団法人 茨城県教育財団 『茨城県教育財団文化財調査報告185集 大山Ⅰ遺跡2 取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 財団法人 茨城県教育財団 『船橋市指定文化財 瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筒の復元模造』船橋市教育委員会 『栃木県埋蔵文化財調査報告第270集 荻ノ平遺跡』栃木県教育委員会（財）とちぎ生涯学習文化財団 『和鏡の文化史 水鏡から魔鏡まで』青木豊氏 『縄文時代における土製栓状耳飾の研究』吉田泰幸氏 『縄文時代の装身具と翡翠』藤田富士夫氏

1. 縄文時代の装身具

縄文時代の遺跡からは、非常に多種多様な装身具が出土します。また、装身具が出土する状況も多様で、他の時代の遺跡からは、埋葬の際の副葬品や死者を装飾した品として出土するのが多い一方、縄文時代の遺跡では、土坑墓からだけでなく、貝塚の貝層の中や土器片などとともに出土することもしばしばあります。取手市内で出土した装身具も、縄文時代の遺跡のものが多数を占めています。

縄文時代の耳飾

縄文時代の装身具の中で、出土例が非常に多いのが耳飾になります。この耳飾は、耳たぶに穴をうがち、そこに装着するタイプのものです。現在も、ピアスとして男女問わず親しまれているアクセサリーに通じるのではないのでしょうか。

さて、約1万年もの長い間続く縄文時代では、遺跡からの出土品によって人びとの生活の変遷が見て取れます。縄文時代の耳飾にも時代の変遷があります。縄文時代の前半に登場するのが、^{けつじょうみみかざり} 玦状耳飾^{けつ}です。玦とは、古代の中国の玉器の名称で、その玉器に形が似ている耳飾を玦状耳飾と名付けたと言われています。玦状耳飾には、石製、骨角器製、土製の種類があり、その形状は、一方に切れ目が入り、その切れ目を耳たぶの穴に通して装着するタイプのものです。一般的には左右セットで使うことが多いようで、偶数で出土することが多いものです。取手市では、縄文時代の前期から中期の貝塚である西方貝塚から破損したものが1点出土しています。

縄文時代の中期に入ると、玦状耳飾は姿を消し、差し込み用の切れ目のない円形の耳飾が出土するようになります。この耳飾は耳たぶの穴にはめ込むように使用されたと考えられることから玦状に対し、^{けつじょう} 栓状耳飾と分類分けされます。また、対で出土することの多い^{けつじょう} 玦状のものに対し、栓状耳飾は大きさも文様もバラバラで出土することが多く、耳飾という装身具に対する意識に変化があったことが伺えます。

栓状耳飾も多様な素材で作られており、石製、骨角器製、土製、木製などの出土例があります。この中で、土製の耳飾は、全国的に非常に出土例が多く、また大きさもデザインも非常に豊富です。縄文に生きた人々の日常的なおしゃれに使われたのではないのでしょうか。また、その大きさから耳たぶの穴をかなり大きくしておしゃれを楽しんだことが伺えます。

取手市でも、取手を代表する遺跡である中妻貝塚（縄文時代中期～後期）や神明遺跡（縄文時代後期～晩期）で多数の土製耳飾が出土しています。



玦状耳飾（西片貝塚出土）



土製耳飾（上2段：中妻貝塚出土 下段：神明遺跡出土）



ヘアピン（神明遺跡出土）

ヒスイ製の装身具

ヒスイは、非常に希少な鉱石で宝石のひとつとされており、日本では新潟県糸魚川市の姫川流域が原産地です。

しかし、ヒスイを使った装身具は全国的に出土しています。^{まがたま} 勾玉や^{けつじょうのみかざり} 球状耳飾、首飾などに使った玉などその種類は様々ですが、縄文時代に特徴的なものが、中期の遺跡から出土する大珠^{たいしゆ}と言われる楕円状に加工した大ぶりの装飾品があります。茨城県常陸大宮市の坪井上遺跡（縄文時代中期）からは、全国最多の8つものヒスイ製の大珠が出土しています。

取手市でも、神明遺跡からヒスイ製の勾玉が2点とネックレスの装飾に使った垂飾^{たれかざり}が出土しています。



ヒスイ製勾玉と垂飾（神明遺跡出土）



カキ製貝輪（西方貝塚出土）



ヒスイ製大珠（茨城県常陸大宮市坪井上遺跡出土）常陸大宮市教育委員会所蔵
上段左より2点目と下段右より2点目を展示、その他はパネル展示



ベンケイガイ製貝輪（中妻貝塚出土）

様々な装身具

縄文時代の人びとは、その他にも様々な装身具を作り出し、身につけていたようです。その中には、貝製のものや骨角器製のものがあります。身近にある貝殻や、動物や魚類の骨などを利用した腕輪や髪飾り、またネックレスなどの部材に使った玉などが出土します。取手市でも、西方貝塚からカキの貝殻を加工した腕輪や、骨製のヘアピン、神明遺跡からはサルボウガイ製の腕輪など、当時身近にあった材料で装飾品を作り、身につけていたようです。

茨城県ひたちなか市の三反田蛸塚貝塚（縄文時代前期～後期）では、ベンケイガイ製の腕輪を13個も身につけたまま葬られた人骨が発見されています。さらには、その多数着けの貝製腕輪を模した貝輪型土製品も同じ三反田蛸塚貝塚と荻ノ平遺跡（栃木県高根沢町）から出土しています。

また、ヒスイなどと同様に、遺跡周辺では採取できない素材の装身具も出土する場合があります。中妻貝塚からは、房総半島以南に生息するイモガイを加工した玉やその未成品が出土しています。これらの出土分布を辿ることで、縄文時代の流通状況がかなり発達していたことが見えてきます。また、このような手に入りにくい希少な装身具を身につけていた人は、一体どのような人物だったのでしょうか。権力者だという説や呪術を司るシャーマン的な人物だったという説などがありますが、今後の研究成果に大いに期待したいものです。



ベンケイガイ製貝輪（茨城県ひたちなか市三反田蛸塚貝塚出土）
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所蔵（パネル展示）



貝輪型土製品（茨城県ひたちなか市三反田蛸塚貝塚）
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所蔵



ベンケイガイ製貝輪出土状況
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所蔵（パネル展示）



貝輪型土製品（栃木県高根沢町荻ノ平遺跡出土）
栃木県教育委員会所蔵

2. 古墳時代の装身具

縄文時代が終わりを告げると、装飾品が出土する量が非常に少なくなります。また、装身具が出土する場所が、ほとんどが副葬品として埋葬施設内からとなります。

また、古墳時代には、非常に特殊なもの以外は画一的なデザインになり、装身具の材料に金や青銅などの金属やガラスが使用されるようになります。取手市でも、市之代8号墳から金属製の耳環や水晶製の玉などが、市之代6号墳からはガラス玉が出土しています。

古墳時代の装身具を知るうえで、人物をかたどった人物埴輪は非常に貴重な情報をもたらしてくれます。装身具のみならず、装束や髪型、場合によっては化粧などの装飾も推し量れます。糠塚1号墳と市之代3号墳から出土した人物埴輪は首飾をしており、市之代3号墳の埴輪は、朱色で目の上に波状に文様が描かれています。

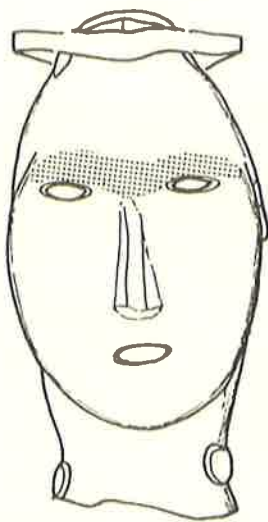
また、非常に珍しいことですが、取手市の大山I遺跡では、古墳時代の住居の跡から銅鏡の重圏文鏡が出土しました。銅鏡は権力を表す貴重品と考えられており、住居跡から出土する例は非常に珍しいものです。残念ながら、発掘調査ではその謎を解き明かすことが出来るような資料は出土しませんでした。取手市にとって貴重な出土資料のひとつです。



市之代8号墳出土副葬品 水晶玉・耳環など（パネル展示）



土玉（市之代6号墳出土）



人物埴輪の彩色の様子



人物埴輪（市之代3号墳出土）

3. 古代の装飾品

律令制度の基には、人びとの身分が体系化され、服装やその色、装飾品やその素材に至るまで細かく規定されるようになりました。また、そのような制約もあってか、縄文時代から続いた玉類の出土が古代に入ると減少してしまいます。

また、神仙や神獣が描かれていた銅鏡も、日本のデザインで花や鳥があしらわれるようになります。平安時代に入ると、それまでの形式にとらわれず、日本独特の文様や形式が色濃くなります。それら和風の銅鏡を、それまでの鏡と区別し、和鏡わきょうと言います。

銅鏡は、古代の遺跡からも副葬品として出土しますが、古墳時代の権威を示すような華美な副葬品の一つとして出土するのではなく、小型の刀であるとうす刀子とセットで出土することが多く、より宗教的な意味合いを帯びてきたと推察されます。

取手市では、下高井向原Ⅰ遺跡から、和鏡の瑞花双鳳五花鏡と刀子を副葬品とした土坑墓づいかそうほうごかきょうが発掘されています。下高井向原Ⅰ遺跡では、平安時代の遺構はこの土坑墓しか発見されず、この土坑墓に一体どのような人が埋葬されたのか、知る手がかりは未だありません。

同じ瑞花双鳳五花鏡と刀子が、同じように土坑墓から発見されたのが、印内台遺跡群（千葉県船橋市）です。この土坑墓からは、鏡を収めるはこ篋の一部も一緒に発見されました。鏡と鏡篋かがみぼこが一緒に出土する例は非常に珍しく、当時の風習文化だけでなく、漆工技術を知る上でも大変貴重な資料となっています。



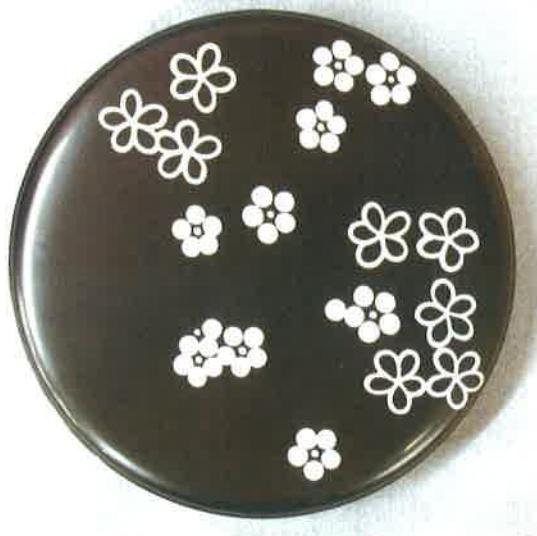
船橋市指定文化財「瑞花双鳳五花鏡」現品
(千葉県船橋市印内台遺跡群出土) (パネル展示)



「瑞花双鳳五花鏡」復元模造品



船橋市指定文化財「梅花文鏡篋(残欠)」現品
(千葉県船橋市印内台遺跡群出土) (パネル展示)



「梅花文鏡篋」復元模造品
展示期間：平成28年2月16日～3月13日
その後はパネル展示とします。



サルボウ製貝輪出土状況(神明遺跡)



ツノガイ製貝玉(神明遺跡)



重圈文鏡(大山I遺跡出土)



ガラス玉(市之代6号墳出土)



市之代6号墳石棺発掘風景



瑞花双鳳五花鏡と刀子(下高井向原I遺跡出土)

取手市埋蔵文化財センター第39回企画展

装身具の魅力 —華麗な出土装身具—

平成28年2月16日~4月22日

編集/発行 取手市埋蔵文化財センター 制作/印刷 (有) 石山宣伝研究所